



# 地域に必要とされる医療機能を持ち 医師の熱意を病院の成長につなげる

vol.60

## 病院新時代

地域の医療ニーズに応える医師の熱意から、  
全国でも有数の循環器手術実績を誇る病院に成長。  
高度急性期病院として今後に備え医療機能の充実を図る。



社会医療法人財団石心会  
**川崎幸病院**  
(川崎市幸区)

### 川崎幸病院の新たな視点

- 地域に必要とされる医療機能を充実させる
- 医師の熱意を後押しできる環境づくり
- 患者・職員に魅力的な病院づくり

1 厚生労働省 2020年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果によると川崎大動脈センターの大動脈手術件数は672件で2位の病院のほぼ2倍の全国1位となっている 2 川崎心臓病センターでは2022年に冠動脈カテーテル手術を826件実施した 3 2022年に脳血管センターは205件の血管内手術を実施し、県内トップクラスに 4 川崎大動脈センター専用のICU(ACU)内では早期リハビリが実施されている 5 年間約1万台の救急搬送を受け入れている 6 病室はプライバシーを考慮して入口の電子パネルにし、タッチしないと氏名が確認できないように設定している 7 植田宏幸事務部長

ERでは、医師を中心としたチームで患者に対応。多くの患者を受け入れるために、役割分担を明確にしている。2008年から救急救命士(写真右の紺のスクラブを着た男性)の活用も進んでいる

## 地

地域の医療ニーズに応えたという医師の熱意を後押しし、成長を続けている川崎幸病院。同院は1973年の開院当初から救急医療に力を入れており、心・脳疾患、消化管出血など緊急性の高い疾患に24時間365日対応するための体制づくりに注力している。地元の名を冠した「川崎大動脈センター」「川崎心臓病センター」などの日本でトップの症例数を誇るセンターの開設は、地域の医療ニーズに応え続けようとする医師たちの熱意から生まれた。

2022年には907件の大動脈手術を行うなど国内最多の実績を出すまでに成長している川崎大動脈センターは、医師の熱意を病院が後押しした。「病院戦略的に機能強化を図ったわけではありません。地域に必要な医療機能として設置した際には、2、3人から始まりました。その後は医師たちの熱意で実績が伸び、成長したのです。そのなかで病院側も医師の熱意に応える形で手術室や集中治療室の充実や、人員の増強などの支援を行っています」(植田宏幸事務部長)。現在はCCUを8床から12床に増床するために準備を進めている。

また、脳神経外科は、緊急時に救急隊と直接連絡を取ることができ体制をつくり、地域の脳卒中患者のスムーズな受け入れ、迅速な検査・治療につなげている。

40年まで人口増加が予想される地域の医療ニーズに高度急性期病院として応えられるように舵を切っている同院。ハード面だけではなく、対応する人材確保も今後は対策が必要だという。植田事務部長は「当院は外科・内科の専門医制度指定修練施設のため、毎年3、4人の採用ができます。研修を通じて魅力を知ってもらう機会を設け、認定取得後もそのまま定着してもらえないようにできれば」と熱意ある医師を確保するための考えを述べた。

今後も病院を発展させるために植田事務部長は「高齢化によって地域のがん治療のニーズが高まります。低侵襲手術ができるロボットは需要も増大します。若手医師のニーズとしてもロボット手術の経験は魅力的なため、導入を検討しています」と話す。



社会医療法人財団石心会  
**川崎幸病院**  
〒212-0014  
川崎市幸区大宮町31番地27  
TEL: 044-544-4611  
診療科: 25科  
病床数: 326床うちICU 24床、HCU 25床

写真=関口宏紀